

税金で成り立つ私たちの生活

さいたま市立宮原中学校 2年 飯山 司咲

私の祖父は救急救命士でした。強い使命感を持ち、ときに自分の身を危険にさらしてまで人命救助に最善を尽くし、一生懸命に頑張ってきた祖父を尊敬しています。

以前祖父に、救急車や消防車を日中でも夜間でも街中でよく見かけるけれど、なぜ無料で利用できるのか、その経費は一体どこからくるのだろうかと聞いたことがありました。祖父は、日本では救急車は公共サービスの一環であり、救急車や消防車を利用するのにかかる費用や、救急車のガソリン費用、メンテナンス費用、救急車内に設置されている医療機器や物品費用、救急隊員の人件費も全て各自治体の税金が使われていること、私たち国民が豊かで安心・安全な生活をしていくうえで、税金はとても大切なものだとして教えてくれました。

さいたま市の令和二年度の救急車の出動件数は六万二千件。この数字は、一日平均一七〇回、約一〇分に一回の割合で救急車が出動している計算になります。いかに出動件数が多いかわかります。

このように毎日何度も出動している救急車ですが、一回の出動におよそ四万五千円の費用がかかるといわれています。救急車の出動が年々増加しているということは、それだけ税金が使われているということになります。しかし、税金が不足すると、公共サービスを受けるための費用を全て自分で負担しなければなりません。急病人を救急車で病院まで搬送することができるのも、災害や火災が起きた時に消防車が出動できるのも、人々が納めた税金が運用されているからで、私たちの健康や生活を守るために税金を納めることは必要不可欠なのです。

日本の国家予算の歳出のうち、一番多く三分の一以上使われているのは、社会保障関係費です。社会保障関係費とは、私たちが安心して生活していくために必要な医療、介護、福祉、年金、生活保護などの公共サービスのことをいいます。少子高齢化が急速に進行している中で、医療や介護費を中心に社会保障に関する給付と負担のバランスは崩壊することに繋がります。医療や介護の費用は増えているのに、大切な税金を払える人口が少なくなっているからです。これからの日本にとって大きな課題の一つであり、すぐには解決できない深刻な問題となっていますが、私たち未来の働き手は、税のおかげで、安心・安全に健康で豊かな生活を送ることができるのだと感謝し、より良い社会にするために、しっかりと納税の義務を果たせる大人になることが大切だと思います。